

鳥取県 後継者不在率が過去最低

M&A、移住型起業、官民連携支援が実を結ぶ：地域経済の持続可能性確保へ

後継者不在については、小紙でも何度か言ってきましたが、このたび帝国データバンクが発表した最新の調査結果（「週刊帝国ニュース山陰版」1月5日号）によると、鳥取県の企業における後継者不在率が62.7%という驚異的な改善を見せ、調査開始以来、初めて7割を切る歴史的な結果となりました。前年の70.1%から大幅に低下したこの数字は、長年「後継者難」に直面してきた地域経済にとって、大きな転換点といえます。今月はその理由を探っていきます。

この改善の背景には、主に三つの構造的な要因が挙げられます。

第一に、従来の親族内承継に固執しない「脱・ファミリー承継」の浸透です。

事業の継続を最優先し、従業員や外部企業へ託す第三者承継（M&A）を決断する経営者が急増しました。特に、鳥取県事業承継・引継ぎ支援センターと地域金融機関が連携した「事業引継ぎマッチング」の成約件数が積み上がったことが、不在率の押し下げに寄与しています。

第二に、県が戦略的に進める「事業承継型起業」の促進です。

これは、県外からの移住者や若手起業家が、後継者不在の地元企業の経営資源を引き継いで「第二の創業」を目指すモデルです。県は、承継後の販路開拓や設備更新を支援する補助金制度や、専門家派遣による伴走支援を強化しており、これにより「ゼロからの起業」よりもリスクの低い「承継による起業」が新たな選択肢として定着しました。

第三に、官民一体の支援体制「とっとり今から備える事業承継コンソーシアム」の成果です。

金融機関、商工団体、士業が情報を共有し、経営者の高齢化が顕在化する前から早期アプローチを行う体制が整いました。これにより、手遅れになる前の決断が促され、後継者の確保につながっています。

ただし、62.7%という数字は依然として全国平均（50.1%）を大きく上回る水準です。小規模事業者が多い鳥取県では将来への不安は根強く、今回の改善を一時的なものに終わらせないことが重要で、次世代のリーダー育成や、M&A環境の整備を継続することが、地域経済の活力を維持するための課題といえるでしょう。



【後継者不在率の推移】

順位	都道府県	今回調査 (2025年)	2024年 調査		2023年 調査		2022年 調査		2021年 調査		2020年 調査		2019年 調査		2018年 調査	
			調査	順位												
5	鳥取	62.7%	70.6%	2	71.5%	1	71.5%	2	74.9%	1	77.9%	2	76.0%	2	72.3%	6
-	全国 平均	50.1%	52.1%	-	53.9%	-	57.2%	-	61.5%	-	65.2%	-	66.4%	-	66.5%	-

会計検査



『公共工事と会計検査』の改訂8版より「会計検査こぼれ話」をご紹介します。
一息ついて読んでいただければ幸いです(^-^)/

著者の市川 啓次郎(いちかわ けいじろう)氏は昭和19年生まれ。
元会計検査院 国土交通総括検査室長を務められていました。

会計検査こぼれ話：女性調査官

現在、検査院の女性調査官は、調査官補、事務官を含めると全調査官の約1割います。均等法施行とほぼ同時期に調査官候補としての採用が始まり、毎年数名程度採用され、現在では租税や保険等の検査課だけでなく、工事検査課にも女性が配置されるようになりました。もちろん、男性調査官同様、全国各地に出張しています。

検査に赴くと、対応して下さる担当者はやはりどこでも男性がまだ圧倒的に多いためか、我々女性調査官を見ると、相手の方からは少なからず「お、女が来たか」という戸惑いが感じられます。しかし、ここからが腕の見せどころ。

本題に入る前には天気の話から、その地域の特色などを話題にして、なるべく緊張ムードを解きほぐすよう努めます。誰しも検査を受けること自体ごめんこうむりたい上、女の調査官とは、やりづらいな—という本音が顔に書かれていることが多いので、女性ならではのソフトさを生かし、笑顔を交えて話しやすい雰囲気作りをします。



もし世間話の一つもせず、いたって事務的に検査を進めようとするれば、相手の方はもっと戸惑うでしょうし、あるいは一方的に問い詰めるばかりでは、反感を買って沈黙されてしまうかもしれません。強制力のない検査では、相手の方に黙られてしまうとお手上げなので、こうした事態だけは避けたいところです。

ごくたまに、こちらが女性であることに気を良くしてか、まだ何もお聞きしないうちから、半ば啞然としてしまうくらい、次から次へとお話しして下さるサービス精神旺盛な男性の方に出くわすことがあります。よく見ると、隣の担当の方が(しゃべり過ぎだ!)といわんばかりに袖を引っ張っていたりして、内心笑ってしまいます。こんな方ばかりだと検査は楽なのですが、しかし、世の中そううまくはいきません。かくして、今日も全国の至る所で女性調査官が受検庁の方と談笑し、時には冷や汗をかきながらも、核心に迫ろうと奮闘しています。(M)



レオ

ちゃんの製品紹介コーナー



特殊品特集 ③

ライオン通信のレオちゃんです♪



今年最初の製品紹介は、12月号、1月号に引き続き『特殊品』のご紹介です。様々なお問い合わせをいただき、1点物の製品を納品しています。お客様の「こんなものがつくりたい!」というご要望にお応えしますので「こんなものつくれるかな?」と思う製品でも気軽にお問い合わせください♪ 今月も様々な納品実績をご紹介しますので、是非ご覧ください^^

植栽ブロック・ベンチ・郵便ポスト土台



植栽ブロック・ベンチ



誰でも休憩できる
憩いの場となっています♪



広島駅再開発プロジェクトにおいて、駅前空間に設置される植栽ブロック・ベンチ・郵便ポスト土台ブロックを納品しました。

多くの人が行き交う公共空間として、景観性と耐久性の両立が求められる計画でした。

設計を担当されたのは、MaNA 前田大輔様・西元咲子様。

イメージを具体化するため、打合せを重ねながら質感や色味の方向性を確認し、仕上げサンプルを製作。

サンプルを通して検討を重ね、最終的には広島県の特徴である真砂土の色と質感を再現する仕上げに着地しました。

化粧骨材を使用した洗出し仕上げを採用することで、コンクリートでありながらも柔らかく、奥行きのある表情を持たせ、駅前空間に自然と調和する佇まいを実現しています。

植栽ブロックとベンチは、可動式とすることで将来的なレイアウト変更やメンテナンスにも柔軟に対応できる設計となっています。

製品下部にはキャスターを内蔵し、意匠性を損なうことなく移動性を確保しました。

** Data **

設計: MaNA 前田大輔様・西元咲子様
サイズ: (植栽ブロック) H400~1200mm
(ベンチ) H400mm
(郵便ポスト土台) H400mm
仕上げ: 洗出し(化粧骨材使用)



コンクリート製時計



鳥取県生コンクリート工業組合様の創立50周年を記念し、記念品としてコンクリート製の時計を製作しました。記念品にふさわしい特別な一品となるよう、素材には組合様を象徴する「コンクリート」を使用。重厚感と存在感を活かしたシンプルながら印象的なデザインに仕上げました。今回、形状や意匠はすべて当社にご一任いただき、オリジナリティのある記念品としてご提案・製作しました。また、文字盤の数字部分や背面の記念刻印にはUVプリントを採用。これにより、コンクリートの表面にもくっきりと印刷することができ、文字やロゴなどの細かなデザインもきれいに表現できます。素材の魅力を引き出しながら、記念の「時」を美しく刻む一点となりました。



** Data **

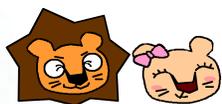
発注：鳥取県生コンクリート工業組合 様
 サイズ：150×150×75mm
 仕上げ：プレーン仕上げ

東京駅八重洲の、「TOKYO TORCH Park」内の広場にコンクリート製のテーブル・椅子・ベンチの脚部を製作しました。広場でレイアウトが簡単に変更できるようにフォークリフトの爪が入るサイズに切欠が施されています。仕上げはプレーン仕上げでコンクリートらしさを表現しています。

テーブル・椅子・ベンチ



上記の写真は、施工から4年後の状態です！
 当時と配置が変わっていますね^^



Data **

サイズ：(テーブル) φ600×H639mm
 (椅子) φ320/380×H368mm
 (ベンチ) W1170×D440×H329mm
 仕上げ：プレーン仕上げ

【第32回 建築・建材展2026 に出展します】

3月3日(火)～3月6日(金)に東京ビッグサイトで行われる建築・建材展2026に出展いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております！

※展示会へのご入場は、招待券の持参・または公式HPからの事前登録が必要となります。
 事前登録をすると入場無料となりますので、是非ご登録ください。(https://messe.nikkei.co.jp/ac/)



<URL> <https://kooge.co/> <e-mail> info@kooge.co